

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104166		
法人名	社会福祉法人 夢の会		
事業所名	グループホーム 夢ごこち		
所在地	山口県下関市長府才川 1丁目41-76		
自己評価作成日	平成31年2月28日	評価結果市町受理日	令和元年 8月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム夢ごこちの理念である「ご利用者様の「こ」個性を大切に「ち」地域とつながる暮らしを目指します。をモットーに、理念に沿った支援を目指している。入居者は職員と一緒に買い物に行き、一緒に家事を行い、同じ食卓にて一緒に食事を楽しんでいる。食事は3食手作りし、その人にあった食事形態を用意し、出来立てのものを召し上がって頂いている。「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」「のんびり」生活リハビリを行うことで入居者の能力を活用し、活き活きとした表情が見られるように自立支援を目的に支援している。家族会は年3回行い、季節に応じて催しもの考え、家族と一緒に食事を楽しみ、一緒にできるレクリエーションを行っている。職員は法人全体研修やホーム内の研修に参加、働きながら学んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に全職員が話し合って事業所独自の理念をつくられ、事業所内に掲示されて、朝礼時には唱和をして共有されています。日々のサービス場面において、常に理念に基づいたものになるように管理者と職員は話し合わせ、確認されながら理念の実践につなげておられます。同一法人の5つのグループホームと連携されて、認知症カフェの利用や尺八演奏やフルート演奏、ソーマン流し、平家太鼓上演等の行事に参加されています。この交流は利用者にとって楽しみごとや気分転換の機会であり、外出機会にもなり、日々の暮らしの充実にもつねっておられます。食事づくりでは、利用者一人ひとりの好みや食べたいものを聞きながら献立を立てられ、旬の食材を使って、利用者と職員と一緒に食事をつくっておられます。利用者は準備から調理、後片付けなど、できることを職員と一緒にしておられます。利用者と職員と一緒に所育児をしておられ植字が楽しみなものになるように支援しておられます。管理者は「利用者が1日1回は笑顔になり、喜びのある生活が送れる」ことを目標に、日々、職員とともに前向きに支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、全員で理念について意見を出し合い、施設理念をつくった。朝礼時に法人理念・施設理念を唱和し、初心を思い出しながら共有している。	「ご利用者様の個性を大切に地域とつながる暮らしを目指します」という、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を職員全員でつくり、事業所内に掲示している。朝礼時に唱和して共有し、日々のケアサービスの提供場面において、常に理念に基づいたものになるように話し合っ確認し、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーに入居者と買い物に行く地元の方やなじみの方に声をかけていただいている。近くの整骨院へ開設の挨拶に訪問すると、「入居者の方へ何かしてあげたい」と毎週ボランティアでマッサージに訪問していただいている。	自治会の特別会員として加入し、拠点施設の1階にある「地域交流スペース」を地域の要望に応じて月1回、地域の「高齢者いきいきサロン」の場として提供している。職員は、地域で毎年実施している「認知症フェア」の開催に協力している。利用者は、公民館祭りへの参加や近隣の菓子工場の見学、コンビニエンスストアやふるさと市場に職員と一緒に買物に出かけている他、月1回、同一法人の運営する「認知症カフェ」に参加して交流している。ボランティア（マッサージ、フルート、ギター演奏、歌）で来訪の人と交流している他、周辺の散歩時や買物時に会う地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「活き活き体操」などの交流の場として「地域交流スペース」を開講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議にて外部評価の意義について説明するとともに、自己評価書類を全職員に配布し記入後取りまとめている。自己評価を記入することにより、ケアの振り返りを行い、介護サービスの質の向上を図ることが出来るように取り組んでいる。	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための用紙を全員に配布して記入してもらい、一人でまとめている。管理者は地域とつながりながら暮らせるよう、地域の人と積極的に関わりを持ち、地域活動の情報を集めるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、自治会長、児童民生委員等に参加していただき、施設の現状報告や意見交換を行っている。	会議は、利用者と家族、自治会長、児童民生委員2名、地域包括支援センター職員、同業者(同一法人のグループホーム)の参加を得て、年6回、特別養護老人ホームと合同で開催している。利用者の状況や行事予定、活動状況、ヒヤリハット報告をした後、話し合いをしている。参加者からは、地域交流スペースを地域に開放して欲しいことや、介護相談や困りごと相談窓口の機能を求められ、早速、地域交流スペースを地域に開放し、独居高齢者の困りごと相談に応じ、解決に至るなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時や電話、出向くなどして情報交換を行っている。	市担当者とは、介護申請や運営推進会議報告、事故報告時に直接出かけて情報交換や手続きについての相談をして助言を受けるなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時に情報交換をして、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修や身体的拘束適正化検討委員会にて身体拘束について学び、理解している。通常玄関の施錠はしているが、外出したいときには一緒に散歩等出かけている、入居者の行動を制限するような言葉は使わないように取り組んでいる。	職員は「身体的拘束の適正化のための指針」を基に内部研修で学んでいる他、年5回ある「身体的拘束適正化委員会」の中で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。交通量の多い国道に面しており、玄関に鍵を掛けているが、外出したい利用者には、職員と一緒に外かけて気分転換を図っている。スピーチロックについては、気になる場合は職員同士で注意し合っ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修にて虐待や身体拘束について学んでいる。入居者の方々の立場を十分に理解し、言葉かけやケアの方法を話し合うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられる。グループホーム内で勉強会を行い入居者の方への理解につなげている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に説明し、将来的な不安や疑問点もしっかり耳を傾け、一緒に考えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。家族会や面会時にて意見や要望を尋ね、全職員に周知している。家族からの意見を取り入れ、家族会にて家族と入居者が一緒にできる歌や書道、作品作り、素麺流し等を行っている。運営推進会議にて状況を報告し、意見交換を行っている。	苦情や相談の受付体制を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、年3回の家族会、行事参加時に聞いている他、年1回、アンケートを実施して聞いている。毎月1回、事業所便りに利用者の活動写真と職員手書の暮らしの状況を送付して、意見や要望が言いやすいように工夫している。意見や要望は「連絡帳」に記録して職員間で共有している。馴染みの外出先の紹介や駐車場の確保等の意見があり、ケアに関することは直ぐに対応し、駐車場確保については上申して、運営に反映するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き、判断できない場合は代表者等に尋ね、問題を放置せず、解決するように努めている。	管理者は申し送り時や月1回の職員会議、カンファレンスで職員の意見や提案を聞いている他、いつでも話しやすいように雰囲気づくりに努めている。代表者が職員会議に参加することもある。会社として今年から「ES向上運動の取組み」があり、職員の満足度を向上するために上部組織から直接、職員に聞き取りを実施している。駐車場の確保や高齢者の使い慣れた蛇口の改良、プリンターや調理器具の購入等の意見や提案があり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、施設訪問時に、入居者と職員ひとりひとりに声かけを行っている。有給休暇は取りやすくなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修は介護職場のマナー、コンプライアンス、企業理念、行動指針、個人情報保護、マニュアル、介護技術の研修が毎月1回あり、全職員が参加し、記録に残している。グループホーム内の研修は各グループホームの管理者が1年間のテーマを決め、リーダーが資料を作成して職員会議の中で実施している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、年4回参加している。受講後は研修記録を回覧し、職員会議の場で伝達してもらい、資料はいつでも閲覧できるようにして全員で共有している。法人研修は、外部講師や法人職員を指導者に、ストレスマネジメントやメンタルヘルス、座位について、ボディメカニズム、接遇マナー、高齢者虐待について実施し、職員は参加している。内部研修は、項目、内容について、法人の5つのグループホームが話し合い、年間計画を立てて実施している。、資料づくりは項目に添って各事業所が担当となり、職員が作成している。管理者が指導者となって、接遇マナーや応急処置方法、食中毒予防と対策、脱水、熱中症対策、災害時の救急対応、看取り、インフルエンザ、ノロウイルス、権利擁護と高齢者虐待、認知症、プライバシー保護と個人情報の取り扱い、身体拘束と高齢者虐待等を実施している。新人研修は日々の業務の中で、管理者や先輩職員から介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して研修や情報交換、施設見学に参加し、参考にできることを取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に基本情報シートを家族に記入して頂き、情報収集を行い、サービス導入前に本人の心身の状態を把握している。本人の思いを傾聴し、気兼ねなく安心して生活できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話を十分に聴き、困っていること、不安なこと、要望等を聴き、事業所としてできることを伝えている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常の生活動作、身体的・精神的健康、社会関係、経済状況、住生活環境などについて、本人と家族等の「その時」のニーズを的確に把握し、適切な支援ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士として、本人のできること、好きなことを見極め、本人の意思で生活できるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や誕生会には家族に来て頂き、一緒に過ごす時間を大切にしている。また、夢ごこちだよりを送る時には本人の日頃の様子を手紙で伝え、家族と共に本人を支えていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に出かけたり、お正月やお盆、法事やドライブにも外出している。入居者に年賀状や暑中見舞いを書いて頂いたり、電話や手紙での交流を支援している。敬老の日や、母の日のお祝いが送られた時にはお礼状を書いて頂いたり、電話をしている。家族や親戚、近所の人等の面会があり、ゆっくり居室で過ごして頂き、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、知人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの商店での買物、自宅周辺のドライブ、同一法人の認知症カフェの利用などの支援をしている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や、法事への参加、墓参、外出、外食、一時帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて皆で一緒にお茶や食事をしたり、談話やレクリエーションを行うなど、皆で一緒に楽しめるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されたり、他施設に移られた後でも、お見舞いや電話にてその後の様子を尋ねるなどして相談しやすい関係を築いていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、家族からの基本情報を記入してもらい、今までの暮らしぶりや望む生活、ADL、健康状態、コミュニケーション能力についての把握に努めている。日々の入居者の言動を24時間生活変化シートに記録し、勤務前に目を通し、本人の心身の状態について把握するようにしている。困難な場合は家族に相談したり、細かな声かけを行い、その思いをくみとり、入居者一人ひとりにカンファレンスを開き、検討している。	入居時には本人や家族から暮らし方の希望や馴染みの人や会いたい人、頼りにしている人等を「基本情報シート」に記録し、センター方式の「私の姿と気持ちシート」を活用して、思いや意向の把握に努めている。日々の関りの中で利用者に寄り添い、利用者の発した言葉や表情、行動を「24時間生活変化シート」に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に相談したり、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人から話を聞く等、職員間で共有し、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートに入居者一人ひとりの生活の様子を記入し、健康チェック表にバイタルや食事摂取量、排泄を記入している。朝夕の申し送り時にも一人ひとりの一日の様子を伝えている。また、生活リハビリの中でも一人ひとりの有する力を把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向、主治医の意見を参考にして職員間でケアカンファレンスを行い、援助目標、援助内容を決め、介護計画を作成している。家族の面会時に意向の再確認と介護計画の説明を行っている。毎日、全員のモニタリングを行って計画の見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が中心になって、月1回、カンファレンスを開催し、本人、家族の思いや意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。モニタリングは毎日のチェックを基に1ヶ月毎にまとめ、6か月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは24時間生活変化シート、健康チェック表、連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診支援や不穏時の個別の支援(外出等)本人に合わせた支援ができるように柔軟に支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の買い物でスーパーや市場を利用や、神社の参拝など地域とふれあいながら、安全で豊かな生活ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。内科、心療内科ともに2週間に一度往診がある。協力医療機関往診の際には、利用者の心身の状態を伝えている。緊急時には電話で様子を伝え、指示を仰ぎ、必要であれば、往診に来て頂いている。他科の医療機関への受診は家族に協力して頂いている。家族が同行できない時は職員が受診の支援をしている。歯科も必要に応じて往診の依頼をしている。</p>	<p>本人、家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは、2週間に1回訪問診療を受けている。他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は必要に応じて往診がある。受診結果は家族には緊急の場合は電話で知らせるが、通常は面会時や月に1回、1ヶ月間の暮らしの情報を送付する際に知らせている。職員は「連絡帳」で共有している。看護師が週3回来訪し、健康管理と相談に対応している。24時間オンコール体制であり、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が週3回、月の半数程度訪問し、入居者の様態を観察し、個々に合わせた相談ができています。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された時は面会に行き、病院関係者と情報交換し、家族と話し合い、早期退院ができるように努めている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りについて事業所ができることについて、家族に説明している。重度化した場合は主治医、家族、職員と今後の方針を話し合い、訪問看護と連携し、チームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>「看取りに関する指針」を基に、重度化や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階に管理者が「意志確認書」によって家族の意向を確認している。本人や家族の意向をふまえて、主治医や家族、看護師、職員と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。内部研修で看取りの研修を行い、家族の希望に添えるように取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し、職員間で事故防止策について検討後、回覧し、情報共有している。職員会議にて報告を行い、再検討して事故防止に取り組んでいる。職場内研修にて年2回応急処置方法(止血やショック状態への対応)の研修を行っている。	事例が生じた場合はヒヤリハットや事故報告書に、原因や内容、対応策を記録して、申し送り時に職員に周知している。ヒヤリハットの場合は想定される事故、改善すべき点を加えて記録している。月1回の職員会議で再度検討して、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。消防署の協力を得て、救急救命法やAEDの使用方法を学び、内部研修では、応急処置(ケガや骨折、喉の詰まり止血)や食中毒予防、熱中症、ノロウイルス、インフルエンザ予防を学び、徘徊者の模擬訓練を3回実施しているなど、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるように取り組んでいる。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼、夜間を想定して消火、避難、通報訓練を行っている。	年2回、内1回は消防署の協力を得て拠点施設と合同で、昼夜の火災を想定した通報、避難、消火器の使い方、避難経路の確認等の訓練を、利用者も参加して実施している。地域への働きかけをしているが、協力体制を築くまでには至っていない。非常用食品は備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体研修や職場内研修で接遇について学び、馴れ馴れしい言葉かけや流行り言葉は止め、入居者が聞き取りやすいように意識して話しかけている。新しく入った職員には守秘義務について説明している。個人カルテは外側から見えないように保管している。	職員は法人研修や内部研修で接遇マナー、プライバシー保護と個人情報の取り扱いについて学び、管理者からは「もし自分の親であつたら」と、常に問いかけられており、利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報は適切に管理し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時の飲み物やお菓子、食事など、本人が食べたい物を聞いている。家にいる時と同じように気兼ねなく過ごせるように本人の思いや希望を聴いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を居室で過ごされたり、リビングでテレビ観賞や談話したり、本人の意思に添って、その人らしい生活ができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて、その人らしいおしゃれができるように一緒に衣類の整理整頓を行っている。毎月の訪問理容を心待ちにしておられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、好みを尋ねながら、旬の献立を考えている。3食ともにホーム内で調理し、出来立ての料理を召し上がって頂いている。入居者の状態に合わせて、きざみ等の工夫をしている。ティータイム時にはホットケーキ、おはぎ、ゼリー、ラスク等の手作りのお菓子を用意し、喜んで頂いている。食材を切ったり、盛り付け、テーブル拭き等、できることをしてもらい、家事に参加して頂いている。ば)や外出時のお弁当、誕生日のケーキなど食事が楽しみなものになるように支援している。	食事は三食とも事業所で調理している。利用者の好みを聞いて、季節感を大切に献立を立て、食べやすいように形態の工夫をして提供している。箸や湯のみはこれまで使用していた馴染みの物を使っている。利用者は食材の買物や下ごしらえ、切る、炒める、味付け、茶碗蒸しをつくる、ハンバーグをこねる、米を研ぐ、お茶汲み、ご飯をよそう、配膳、下膳など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルについて、楽しく食材の話しながら同じものを食べている。おやつづくり(どら焼き、たこ焼き、コーヒーゼリー、おはぎ、柏餅)や、弁当を持って園芸センターでの戸外食、外食(くら寿司、マクドナルドなど)、手づくりケーキのつく誕生日、季節行事食(おせち、節句の寿司、鰻、恵方巻、ソーメン、年越しそば、雑煮)、保存食づくり(梅干し、梅ジュース、ラッキョ、干し柿)、家族の協力を得て外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量摂取量の記録をしている。むせる方には水分にトロミをつけるなど、その方にあった食事を提供している。水分量が不足している入居者の方にはお茶ゼリーを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じて、義歯の洗浄をしている。口腔ケアの拒否をされる方には時間をかけて声かけし、自分の力で口腔ケアできない方には理解し易いように声かけし、介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や24時間生活変化シートを活用して、パターンを把握し、声かけ、誘導を行っている。トイレの場所がわからずにそわそわとされている時もトイレで排泄できるように声かけ、誘導している。居室にトイレがある為、排泄のパターンが把握できないこともあるが、居室のトイレを好んで使用されている。	「24時間生活変化シート」を活用して、排泄習慣や排泄パターンを把握し、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。オムツやパットを使用する場合は職員間で話し合い、根拠をはっきりさせてから家族にも説明して支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午後のおやつに手作りヨーグルトを提供している。運動を取り入れたレクリエーションや散歩を行っている。お茶ゼリーを提供し、なるべく薬を使わず、便秘を予防している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日14時から16時までゆっくりとあたたまるように入浴剤を入れ、入浴を楽しめるように工夫している。入浴したくない入居者には時間をずらしたり、職員を代えたり、言葉かけの工夫をしている。入居者の状態に合わせて、全身清拭や足浴を行っている。寝る前の入浴は難しく、希望には応えられていない。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯など、利用者の好みに応じて、くつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして支援している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は入居者の半数以上の方が自然と居室やソファで休んでおられる。室温や乾燥、物音に気をつけ、安心して気持ちよく眠れるよう、寝具類も清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の副作用は理解できていないが、服薬後の入居者の様子はしっかり観察している。新しく薬が変わった場合や服薬後、症状に変化があった場合は主治医に相談後、連絡ノートに記入し、職員間で共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬり絵、歌、毎日の掃除、洗濯物干し、たたみ、調理など入居者一人ひとりが持っている力を生かした役割をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごして頂いている。節分、七夕、焼き芋、誕生日会、敬老会、クリスマス会等の季節の行事、ボランティアの訪問を積極的に取り入れ、楽しみごとや気分転換の支援をしている。また法人内の他ホームでの行事にも参加し、入居者同士の交流を図っている。	掃除(掃く、雑巾でソファを拭く)、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、新聞をとり込む、花を生ける、花瓶の水を換える、ブレンダーの水やり、家族へお茶出し、編物、雑巾を縫う、テレビやDVDの鑑賞、ラジオやCDを聞く、日記をつける、本や雑誌を読む、写真集を見る、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、習字、歌を歌う、かるた、トランプ、百人一首、カレンダーづくり、風船バレー、ボール遊び、リハビリ体操、テレビ体操、口腔体操、脳トレ(漢字、計算、なぞなぞ、しりとり、四文字熟語)、細川たかしコンサート、季節行事(拠点の夏祭り、公民館文化祭、敬老会、七夕、運動会、クリスマス)、お誕生日、焼き芋会、ボランティアの来訪、家族との外出、外食等、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面を多くつくり、楽しみ事や気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物や散歩、外出支援、ドライブなど、月に一度は出かけている。また家族の協力を得て、外出、美容院、外食、法事へ参加もされている。また、職員と歌手のコンサートに出かけ歌を楽しまれている。	近隣の散歩やプランターへの水やり、コンビニエンスストアやふるさと市場での買物、季節の花見(つつじ、バラ、コスモス)、ドライブ(自宅周辺、菊川、内日方面、道の駅、園芸センター)、初詣、サンパーク阿知須、毛利邸、菓子工場見学、外食(回転寿司、ハンバーガーショップ)、同一法人のグループホーム行事に参加(認知症カフェ、尺八演奏会、フルート演奏会、平家太鼓見学、ソーメン流し、施設見学)している他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や法事に出席、墓参、細川たかしコンサート、外食、一時帰宅、外泊等、利用者の希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持っておられないが、身の回りの必要な物は家族の了解を得て、立替金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の電話番号をメモに取り、大切に持っている方がおられ、希望により、電話して頂いている。暑中見舞いや年賀はがきに本人の写真を入れ、名前を書いて頂いて郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面や廊下に入居者の作品や行事の写真飾り、家族が面会に来られた時も暮らしの様子がよくわかるようにしている。季節ごとに飾り物や花を飾り、季節感を感じて頂くようにしている。また、リビングのソファやテレビの配置を工夫し、動線を考えた安全な配置にし、観葉植物を置き、室温や湿度に配慮し、明るくゆったり過ごせるようにしている。台所は対面式キッチンであり、調理しながら、入居者の様子も見られ、カウンターを利用して調理のお手伝いをして頂くことができ、調理の匂いで「お腹が空いた」と言い、台所に来られる入居者の方もおられる。	事業所は拠点施設(特別養護老人ホームとデイサービス施設)の3階にあり、窓からは周辺の街中の様子が一望できる。居間兼食堂は明るく、季節の花や観葉植物を飾り、机や椅子、ソファがゆったりと配置してある。対面式の台所からは、ご飯の炊ける匂いや調理の音がして、五感を刺激し、生活感を感じることが出来る。台所の前のカウンターでは利用者が盛り付けの手伝いをしている。壁面には利用者と職員がつくった季節の貼り絵や活動写真が飾ってある。室内にはレクリエーション用具や雑誌が自由にいつでも取り出せるようになっている。廊下にはソファがいくつも置いてあり、利用者一人ひとりが、思い思いに過ごすことができるようになっている。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや廊下の椅子にて、親しい入居者同士で会話を楽しんでいる。座布団やクッション、ひざ掛けを使用し、ゆったり思い思いに過ごして頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベット、文机、布団、衣類、衣装ケース、写真などを持って来られ、読書を好まれる方は本を置いたり、「私の部屋」として楽しんでいる。写真や色紙、ぬり絵を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベッド、寝具、クッション、テレビ、テレビ台、カセットラジオ、時計、雑誌、本、衣装ケース、衣裳かけスタンド、編み物道具、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、祝い式紙や写真、カレンダーを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。居室は自立した生活が送れるように整理整頓や動線を考えた家具の配置を工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム夢ごこち

作成日: 令和 元 年 8 月 23 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	すべての職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	全職員が応急手当や初期対応の訓練に参加し、実践力を身に着け冷静に行動できる	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修において応急手当や初期対応の訓練を継続して行う ・応急手当講習テキストを活用する 	1年
2	36	地域との協力体制の構築	地域の方との避難訓練を実施、協力体制を築く	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議等で協力が得られるよう依頼していく 	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。